

報道機関 各位

2019年1月9日

## 2019年 JIRA 会長 年頭所感

一般社団法人 日本画像医療システム工業会  
会長 新延 晶雄

新年、明けましておめでとうございます。

2019年の年頭に当たり、当工業会の会長としての所感を述べさせていただきます。

JIRAは発足から52年目を迎えました。本年は、東京オリンピック・パラリンピックの大会開催が2020年に迫り、また2025年の大阪万博の開催も決まり、日本の明るい未来を世界に示す絶好の機会になるものと考えています。我々医療機器産業界にとっても、日本の質の高い医療と高度な医療システムを全世界にアピールし、新たな発展の機会になるものと期待をしています。

一方日本は、社会構造の変化に伴う課題を、国を上げて解決しようとしております。その中でJIRAは画像医療システム産業を担う工業会として主要な課題に取組み、環境作りなどに務めて参りましたが、今後の発展に向けた転換期を迎えていると考えます。

本日は現状を概観するとともに、JIRAの次のビジョンの策定についてお話しいたします。

### 1. 日本社会の課題

日本は、人口構成の急激な変化に伴い、少子高齢化社会から、高齢社会、超高齢社会へと進み、社会構造が大きく変わって行きます。現在、総人口はピークを過ぎ減少に転じ、さらに少子化が進み、高齢者人口は高止まりとなり、生産年齢人口が減少していくという姿が明らかになっています。社会保障費の増大や生産者人口の減少などの問題を抱え、日本は課題先進国と言われてきましたが、今はこれらの課題に対して総力を上げ、世界に先駆けて解決することが急務です。その中で、国は「健康寿命の延伸」「人生100年時代」「働き方改革」といったテーマを掲げ、いわゆる団塊の世代が全員75歳以上となる2025年問題に向けて社会保障等の改革を進め、更に団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えて、より具体的な施策を実行に移していくものと考えます。

健康・医療分野での課題と取組の方向性ですが、3大疾患である、がん、心疾患、脳卒中に加えて、高齢化に伴う生活習慣病や認知症などが増加すると考えられ、医療における狙いとしては、早期診断・早期治療や重症化防止が必要になります。また、医療体制としては地域包括ケアや在宅医療などに向けた施策が進められますので、これらへの対応も重要になると考えます。

こうした背景を踏まえ、JIRAは工業会としての新たな目標を定めて活動に取り組んで参ります。

### 2. 画像医療システム産業とAI

画像医療システム産業はX線撮影による画像診断装置から始まり、常に医療現場のニーズに向き合って改良改善を重ねてきました。画像のデジタル化を起点としてCR・DR、CT、MRI、核医学、放

射線治療等のモダリティや、PACS 等のシステムで成長し、関連する製品やサービスとともに発展してきました。10 年ほど前からは医療 ICT 推進の取組を重点化し、単体ソフトウェアの医療機器化、CAD の審査・開発ガイドラインの制定、医療情報の利活用とそれに伴う個人情報保護、サイバーセキュリティへの対応、診療報酬によるイノベーションの評価などの主要な課題に取り組んできました。

今後の日本社会の課題解決に向けて大きな期待を寄せられているのが人工知能(AI)です。医療分野においても近年の急激な AI 技術開発に合わせて、産官学は AI に関連した取り組みの強化を図っています。厚生労働省では「保健医療分野における AI 活用推進懇談会」の報告書(2017 年 6 月公開)の中で AI の実用化が比較的早いと考えられる領域の一つとして画像診断領域を上げました。その中で民間企業における AI 開発促進のために、関連学会による画像データベースの構築や、法律上の取り扱いの明確化といった施策を示しています。産業界では各企業が AI 開発に急ピッチで取り組んでいます。2018 年には「保健医療分野 AI 開発加速コンソーシアム」が開催され、第 1 回会議に提出された資料の「AI の活用により期待される成果」では、画像診断支援、負担軽減、新たな診断方法や治療方法といったキーワードが示され、まさに画像医療システム産業が貢献出来る内容です。工業会として諸外国に遅れを取ることなく、産官学の連携を深め、関係者が一丸となって、AI 開発促進に向けた活動に取り組んでいきたいと思ひます。

### 3. JIRA の取組

JIRA が毎年開催している JIRA 画像医療システム産業研究会では、2017 年の「AI を用いた医用画像診断」をテーマとした開催に続き、2018 年 12 月には「AI を用いた医用画像診断 Vol. 2」を開催しました。放射線画像診断領域だけでなく内視鏡、超音波、病理などより広範囲な画像診断・検査の領域での人口知能の応用や開発用データの扱い等について有識者にご講演いただき、意見交換する場が設けられました。

AI について JIRA が注力していくテーマですが、近年ディープラーニングで飛躍的性能向上を遂げた技術を放射線科などの医用画像に対して適用されることが期待され、モダリティやシステムの更なる技術開発と合わせて早期診断・早期治療および低侵襲の医療に貢献し、健康寿命の延伸に寄与するものと考えます。更に、画像診断レポートの半自動化によるワークフローの改善や、被ばく線量の管理、装置の保守管理などへ AI 技術が適用されることにより、医療現場の効率化や患者様および医療従事者の安全安心へ大きく貢献することが期待されます。

AI 以外では、社会環境の変化への対応力を高めるために、サイバーセキュリティ強化に向けた取り組みや、災害等の発生時にも持続して安全安心に利用できる画像診断装置・システムの開発・提供も重要な課題であり、国際展開・国際貢献の視点では国際整合や地域別規制への対応を進めることも必要です。

JIRA は工業会の部会・委員会活動のアウトプットとして、より付加価値の高い成果を上げ、会員企業と関連産業の事業拡大に貢献していきたいと考えております。

#### 4. JIRA 産業ビジョン 2025 の策定について

JIRA の活動は、「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2020」を基本戦略とし、毎年の活動計画を策定して活動を進めてきましたが、前述のような現況を鑑み、次のビジョンの策定に着手しております。下記が JIRA 産業ビジョン 2025 の 4 つの方向性であり、これを柱としてビジョンの詳細内容を策定し、2019 年の 4 月に開催される ITEM2019 で発表することを目指しています。

##### 【JIRA 産業ビジョン 2025 の 4 つの方向性】

1. 社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。
2. 革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。
3. 日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。
4. 社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

JIRA は今後も環境変化に対応し、医療現場のニーズに応え、技術や製品をいち早く提供するために、これまで築いてきた環境・基盤に加えて、更に必要な環境作りに向けた政策や規制への提言を行うとともに、関係される方々に有用な情報の提供・共有を行って参ります。

今後とも会員企業及び関係各位の更なるご理解・ご協力と、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年の年頭所感といたします。

以上

【一般社団法人日本画像医療システム工業会について】

1967 年設立以来、日本における放射線医療の発展とともに歩みつづけ、今日では放射線機器・画像医療システム等を供給し、つねに先進の医療環境をサポートする 199 社(2019 年 1 月現在)の会員会社を擁する産業団体に成長しました。

当工業会は、設立当初から業界標準化の推進や法規制対応、安全性問題等に幅広く取り組み、人々の健康と福祉に貢献してきました。高齢化社会への対応が急がれる 21 世紀、今後は、予防・健康管理から早期発見・診断・治療まで、医療機器とそれに伴うサービスやソリューションの 範囲を拡げていくことが使命であると考えます。

当工業会各社は、画像医療システム産業を健全に発展させ、国民の健康と日本経済の発展に貢献できるよう一丸となって活動していきます。